

第3回環境研究機関連絡会成果発表会

—安全・安心な生活を目指して、環境との関わりを考える—

独立行政法人森林総合研究所

理事長 大熊 幹章

環境研究機関連絡会は、平成13年10月に結成され、本年で4年が経過したことになります。私はこの連絡会設立の経緯を全く知りませんが、農業から建築・土木に至るまで広い範囲をカバーする11の国立あるいは独法研究所が今日的課題である環境問題を通じて研究機関連絡会を造り、活動を継続的に行って来たことに対し、また活動を支えてきた皆様に敬意を表します。そして本日、第3回の成果発表会が盛大に開催されることを大変うれしく思います。

本研究機関連絡会設立の目的は、各研究機関で行われている環境に関わる研究およびこれに関連する諸事項について情報を交換し、相互に理解を深めて協力の機運を形成し、研究遂行の効率化を図るものと伺っております。この目的を果たす主要なイベントが本日の成果発表会でありましょう。今回は3回目の成果発表会になりますが、共通のテーマを「安全・安心な生活を目指して、環境との関わりを考える。」と致しました。連絡会メンバーの全11研究機関から発表課題が出されまして、本日は午前・午後を通して11課題の発表が行われます。

各研究所におかれましては、次期中期計画の策定など大変お忙しい中ご協力を賜り、担当機関として厚く御礼申し上げます。報告は、第1部「異常気象と地震・津波から自然と暮らしを守る。」、第2部「有害化学物質と外来植物のリスク管理」の2部に分かれて行われます。

安全・安心な生活は、国民のひとしく願うところであります。異常気象、自然災害の発生が最近増加してきており、我々の生活、そして自然が脅かされております。また、有害化学物質による汚染も依然として進行し、我々の健康と生活環境の破壊が心配されております。外来植物による在来種の侵食も大きな問題です。

これらの自然と人間生活の安全・安心を脅かす諸現象の発生メカニズムを明らかにし、その影響を考察して対策を講じる研究は、まさに国民の強い要請に応えるものであります。今、安全・安心・リスク管理は現代生活のキーワードになっており、その達成は国民の願うところですが、この問題を11の研究機関がそれぞれ異なる切り口で考究し、その研究成果を発表する本日の報告会は、極めて興味深く、多くの人々の関心と呼ぶことでしょう。

さて、環境問題は、21世紀の人類生存に関わる極めて重大な課題になってきています。この問題は世界的、国際的広がりを持つと同時に我々の日常の生活、日常の行動に直接関係するものです。まさに Think globally, act locally であります。安全・安心の確保も生活に密着した身近な問題であると同時に、それを脅かす現象は地球規模で考えなければ解明できない問題であります。本日の発表会が環境問題の本質を考える良い機会になることを期待します。また、異なる分野の研究者と交流し、意見を交換することによって新しい発想が出てくるのではないのでしょうか。

本日の成果発表会が実りのあるものとなるよう祈念致します。